

# 研究の概要及び成果要約

## 1 研究主題

「故郷を誇りに思い、未来に生きていく力を身につけた誠の人づくり」  
～翁頭宣言「未来への誓い」の実践の先に～

## 2 主題設定の理由

平成24年度から3年間、五島市教育委員会の指定を受け、「小中連携による学力の向上」の研究を行った。研究の成果として、望ましい学習習慣が確立し、基礎学力の定着が認められた。

平成27年度からは、校訓と学校教育目標、そして前年度の学校課題をもとに、最終目標（研究主題）を「助け合い立ち上がろう 励まし合い動きだそう」と設定し、身につけた学力を、自らの志を抱いて世のため人のために活かすことのできる誠心（まごころ）を育てることをねらって、教育活動を展開してきた。

平成28年度の本校の教育方針に、先人の想いが刻まれた校訓と校歌の精神「規律、親和、勤労の人づくり」と五島藩校の精神「至誠の人づくり」が記されている。また五島市の教育方針の一つに故郷五島を思いやる心の教育がある。以上のことから、平成29年度は身につけた学力を、志をもって世のため人のために使うことのできる「誠の人」づくりをめざし、研究主題を「故郷を誇りに思い、未来に生きていく力を身につけた誠の人づくり」と設定した。

翁頭宣言「未来への誓い」の実践をとおして、目標や志をもって身につけた学力を世のため人のために能動的に使うことのできる「未来に生きていく力」の育成を全教育活動をとおして仕組んでいく。

## 3 研究仮説

CAP-Dサイクルの実践により、生徒に何が必要かを見極め、生徒が成長できるカリキュラムを仕組み、教師が束になって教育活動を営む。全教師が課題を共有し、本校生徒に身につけさせたい資質・能力を全教育活動をとおして教師が計画的・継続的に高めていく。

このように教育活動における翁頭宣言「未来への誓い」の実践を計画的・継続的・組織的に仕組むことで、自己肯定感や自他を愛する姿勢が高まり、身につけた学力を世のため人のために使うことのできる「誠の人」が育つであろうと考える。

## 4 研究経過

平成28年度に校内研修を重ね、「誠の人になるために必要な資質・能力」を以下の五つに整理した。

### 育成したい資質・能力（誠の人になるために）

- |                                   |         |
|-----------------------------------|---------|
| (1) 主体的に課題を見出し、解決への見通しを立てる力       | (規律)    |
| (2) 望ましい理想の姿を描き、勇気をもって行動に移す力      | (規律・親和) |
| (3) 自分の良さを認め、人の気持ちを理解し、自他を愛する姿勢   | (親和)    |
| (4) 深い思考から、正しく判断する力               | (勤労)    |
| (5) 課題解決に向けて、計画的・継続的に我慢強く鍛練を重ねる姿勢 | (勤労)    |

また、育成したい資質・能力（誠の人になるために）を整理した「ルーブリック表」を作成し、行事や授業での活用を試みた。各行事の目標には、育成したい資質・能力が設定されている。さらに各教科の年間指導計画に、それぞれの単元でどの資質・能力を育てるのか明記するようにし、全教育活動から「誠の人」に迫ることができるようにした。

次に「全教育活動からのアプローチ」の作成に着手し、検討を重ねながら、全教科で年間をとおして計画的に「誠の人」を育てることができるよう試みた。

## 6 豊かな心づくり部会（分析と考察）

### ① 心を磨く清掃

- ・学校が静まりかえった中で、黙々と生徒が自主的に清掃活動に取り組めるようになり、自主・自律の精神を育てる効果的な活動となった。

### ② よか日（誠の人探求カード）

- ・笑顔で受け渡しをする光景が見られ、自己肯定感を高める活動として有効である。
- ・「誠の人」アンケートで、自分がどれだけ「誠の人」に近づけているかを自己分析できるようにしている。

### ③ 自己肯定感を育む短学活（1分間スピーチ）

- ・自分の思いを相手にわかりやすく、楽しく伝えようとする姿勢が高まった。
- ・教師が事前に指導をすることで、自信をもって発表することができ、達成感を味わう生徒も多い。
- ・文章を書くことが苦手な生徒や、普段はあまりコミュニケーションをとりたがらない生徒も、教師の指導をとおして、成功体験を得ることができ、自分を表現する場となっている。

### ④ 校門での礼、両手での靴並べ

- ・校門での礼をすることで、1日の目標の確認や振り返りをすることができ、また校舎内外でも丁寧な挨拶ができるようになってきている。
- ・両手で靴並べをすることが定着しつつある。学級のロッカーの整理なども、実行部が自主的に呼びかけるなど、よい効果が出てきている。

### ⑤ 笑顔でつながる3か条

- ・「笑顔でつながる3か条」を制定してから、スマホ・ネットに関するトラブルは0件になった。
- ・小学生からスマホを使用している生徒が多い。今後は、小学校とスマホ・ネット問題対策についても連携していく必要がある。

## 7 学ぶ力づくり部会（分析と考察）

### ① 学習の約束、聞き方スキルアップ表

- ・「学習の約束」は、教室前方の見やすい位置に掲示したことで、短学活や授業の始まりなどに確認することができ、学校生活全体に根付いてきている。
- ・週の目標を設定したことで、生徒たちの学習への意識がさらに高まった。

### ② 小中連携による共同研究

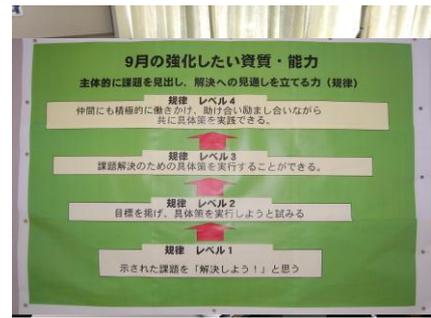
- ・学びの習慣化リーフレットの活用状況について、昨年度の調査から下の表のような結果が出た。

質 問	は い	いいえ
リーフレットを御存知でしたか？	65.1%	34.9%
リーフレットを使って、お子様と家庭学習の話をされたことがありますか？	39.3%	60.7%

そこで、今年度は作成の柱に「家庭学習の習慣化」を据え、記載内容のさらなる充実を図ることができた。活用状況については、2学期末に生徒と保護者を対象に調査を実施する。

### ③ 全教育活動からのアプローチ表の作成

- ・ 誠の人になるために育成したい五つの資質・能力の中から、その月に特に育成したいものを学校行事を軸として一つ決定することができた。
- ・ 一つ選んだ育成したい資質・能力は、「今月の強化したい資質・能力」として校内に掲示した。これにより、授業や諸活動に対する生徒と教師の意識が高まった。
- ・ 昨年度から、校内研修で何度もワークショップを開いた。失敗→検討→改善をくり返しながら、現段階のものに至った。
- ・ 8月に全学年分が完成したばかりである。これから、アプローチ表を活用していくことが課題である。



〔「強化したい資質・能力」の校内掲示 (9月)〕

〔ワークショップの様子〕

### ④ ルーブリック表の活用

- ・ ルーブリック表の自己評価は、少しずつ向上してきた。
- ・ 効果的な活用について、今後さらに授業研究や校内研修等を重ねて検討していく必要がある。

### ⑤ 地域とのつながり

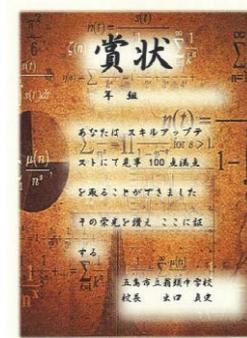
- ・ 自転車の安全運転について、教師は「自分の命を守る (大事にする) こと」と「他人を絶対傷つけないこと」を指導の軸として繰り返し指導した。このことによって、生徒たちの意識を高めることができた。今後も継続していく。
- ・ 総合的な学習の時間において、地域おこし協力隊の方々と懇談会をもったことは自分たちの力で五島の魅力や情報を発信するきっかけとなった。結果的に、生徒たちの学習意欲が向上した。

### ⑥ スキルタイム、朝読書の実施

- ・ 「スキルタイム」については、昨年度と同様に生徒たちが積極的に取り組んでいる。



〔満点者の掲示〕



〔満点賞の賞状〕

- ・ 「朝読書」については、生徒会活動と連携し、静かな雰囲気の中で実施している。授業や学校生活の中の会話から、身についたと感ぜられる生徒も見られた。

## 8 研究の成果と課題

### 成果

- (1) 自己肯定感が高まった。
  - ・全国学力・学習状況調査生徒質問紙では、全国平均と比べても高い値を示している。
  - ・1分間スピーチ、行事への取組、よか日（誠の人探究カード）等をとおして、生徒の自己肯定感が高まってきている。
- (2) 故郷を大切にする心が育ってきた。
  - ・全国学力・学習状況調査の生徒質問紙では、全国平均と比べても高い値を示している。
  - ・学校が地域と連携することにより、週休日や祝日に行われる地域行事に多数の生徒が参加するようになった。
  - ・主体的に故郷の伝統を守ろう、故郷を大切にしようという生徒が増えてきた。
- (3) 「人の役に立ちたい」と思う生徒の割合が高まった。
  - ・全国学力・学習状況調査の生徒質問紙回答結果からも、人の役に立ちたいという生徒の割合が非常に高いことが分かる。
  - ・学んだことをいかして、地域や社会に貢献しようという生徒（誠の人）が育ってきているといえる。
- (4) 校訓の「親和」の心が育ち、より楽しい学校生活を送ることができるようになった。
  - ・「誠の人アンケート」の「登校時刻を守れましたか」の質問では4.0の値を示している。毎年、生徒の登校時間は早まってきており、学校は子供たちにとって過ごしやすい場所となっていると捉える。
  - ・生徒が「笑顔でつながる3か条」を創り、取り組んだ結果、ここ2年間はSNS使用によるトラブルが0件である。
- (5) 育てたい資質・能力が月を追うごとに育ってきた。
  - ・毎月生徒に、ルーブリック自己評価表に、自己評価を行わせている。その際、次の目標レベルも設定させるようにしている。全教育活動をとおして、教師集団が資質・能力を高めるように取り組んでいる結果、数値が上がりつつある。
- (6) 全国学力学習状況調査、県学力検査の結果が改善され続けた。
  - ・どの教科も全国より高い値を示すようになった。また、県学力検査（英語）では、長崎県の平均よりかなり高い値を示している。
  - ・全国平均との差で比べると、中学校入学時に比べ、中学校3年時にはかなり学力が向上している。（4年連続向上）
- (7) 翁頭宣言「未来への誓い」の実践の先には学力の向上がある。平成28年度、29年度は学力向上の研究に特化したわけではないが、人を育てれば自然に学力があがることがわかった。

### 課題

- (1) 全教育活動からのアプローチ表を継続的に活用する。
  - ・作ることにかなりの労力を使った。失敗を繰り返し、現在のものが完成したが、作ることが目的ではないので、アプローチ表を効率的、効果的に使い続けていく必要がある。また、さらに使いやすいアプローチ表の作成・改善や効果的な使い方を研究していく。
- (2) 誠の人づくりを継続する。
  - ・教師、生徒が変わっても「両手での靴並べ」や「456挨拶」、「心を磨く清掃」を継続していくことができるよう、職員と生徒が本気になって取り組む。地域と一体となり、本校の伝統をつくっていく。

※研究紀要は本校ホームページに掲載しています。